

第2回海陽町学校のあり方検討委員会  
議事録

日 時：令和4年2月25日（金） 10：00～11：30

場 所：海南文化館 大会議室

出席者：委員16名中11名出席（別紙名簿参照）

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長、森崎教育次長、浦川主査  
（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子、佐々木

■議事1 学校の適正規模についての考え方

（登井委員長）

学校の適正規模について、事務局から説明をよろしく願いいたします。

事務局・森崎教育次長及び三浦教育長から説明

（登井委員長）

それでは、ただいまの事務局の説明について、ご質問はありませんか。どの視点からでもいいので、ご発言をいただけるとありがたいと思います。よろしく願いします。

（皆津委員）

私が2つ思ったのは、1つは海南と穴喰は児童生徒数が激減するものの、海部はそのままということ。もう1つは、資料にはメリットやデメリットが整理されていますが、見方としては、地域から見た視点というものがやや少ないと感じます。児童数だけで子どものメリット・デメリットを考えていくのではなく、地域全体の活性化を含めて、その視点が欲しいなと個人的に感じました。

（登井委員長）

事務局どうでしょうか。

（事務局・森崎教育次長）

3地区の児童の推移というのは、見かけ上は海部の方が減らない、むしろ増えるような絵になっています。これは計算式に基づいて出していますので、ある程度正解な部分もあろうかと思いますが、実情はいろいろな条件が入ってくれば、当然この人数が減るということもあります。そのままいくかどうかは、これは推計的なものなので、正直わからないところがあります。ただ、一般的に使われている推移の計算方法に基づくと、こういうことになっているということが指し示されている状況です。それと、メリット・デメリットについては、

地域からの見方も取り入れていければと思います。

(事務局・三浦教育長)

私も資料をまとめる中で、皆津委員が言われた一番大きな視点を入れ忘れたなと思います。第1回の検討委員会の中で、まちづくりの視点というお話もしましたが、学校施設は児童生徒の教育のためだけの施設ではなくて、地域のコミュニティの核であって、防災であったり地域の交流の場であるなど、それは外せないところです。次回の資料には付け足します。

(事務局・安孫子)

ご指摘いただいた地域からの学校のあり方の視点というのは、この資料の中に欠けています。大きく捉えると、教育長が今説明されたように、地域のコミュニティの核であるという位置付け、それから防災という活動、こういった点は大きな項目として、言葉としてはありますが、もっと具体的に地域と学校のあり方について多様な意見があろうかと思います。それを補完していくために、この委員会で、あともう1回、令和4年度に地域とコミュニティについての意見交換が予定されています。また、地域の方にアンケートを取っていくことになります。こういったことから、地域と学校のあり方について、地域の方の視点からご意見をいただいて、それを盛り込んでいくことで、皆津委員からご指摘があった地域の視点というものを固めていきたいと考えています。

(登井委員長)

戒田委員、地域の方々のご意見を入れていくことについてはどうでしょうか。

(戒田委員)

宍喰小学校でも、コミュニティスクールとかいろいろ取り組んでいますが、非常に重要な視点だと思います。数字などに表しにくい内容なので、どういう形で計画に入れていくか難しいと思いますが、言葉で入れるしかないのかなと感じます。

(登井委員長)

宍喰小中学校運営協議会委員の谷口委員、どのようにお考えでしょうか。

(谷口委員)

まだ2回目の会議で把握ができていませんが、前回の会議で一応、海陽町で2校の小学校と2校の中学校をというような構想があるというお話でしたが、そこに向かっていくのでしょうか。小学校がなくなると地域が廃れていくのは、宍喰に住んでいて商業がなくなるなど感じています。例えば、アンケートの答え次第では、学校は残していこうということになるのででしょうか。

(登井委員長)

「こういう方向でいこう」というのではなくて、今はいろいろな意見を出していただく場ではないでしょうか。

(谷口委員)

最終的には、小学校2校、中学校2校にしていきたいという目標はあって、進んでいくという話なのではないでしょうか。それとも、今のままでデュアルスクールやコミュニティスクールをしつつ、存続させていくのがいいかというのを検討するのでしょうか。

(登井委員長)

私はいろいろな意見があっていいと思っています。町が進めている施策をすることで、現状維持でもいいという話し合いになってもオッケーだと私は捉えています。事務局いかがでしょうか。

(事務局・三浦教育長)

前回もお話しましたが、平成20年度につくられた町の学校統合計画が存在しています。それはずっと生きています。小学校2校、中学校2校体制をつくる前段に、小学校はまず3校と中学校2校体制ということが決まっています、今現在そういう体制になっています。それから10数年経って、いろいろ社会情勢が変わっていますが、その方向性は残っています。ただ、時間も経っていますので、一度その辺りもご意見をいただきながら、子どもたちにとって持続的でいい教育環境をつくるにはどうしたらいいかを考えていければと思っています。児童生徒の数だけで割り切るなら非常に簡単でいいのですが、財政ということも無視することのできない大きな視点ですので、そのようなことも含めながら、より良い教育環境をつくるために、いろいろな角度からご意見をいただきたいと思います。現在の小学校を残すべきだという意見も出していただいてもいいと思います。2校、2校体制へ向かっていくための計画ではなく、みなさんからいただいた答えをもって教育委員会としては新たな基本計画をつくって、それに向かって取り組んでいきたいと考えています。いろいろな角度からご意見をいただければと思います。

(登井委員長)

いろいろな意見が出てくるのはありがたいということですので、遠慮なく意見を出しましょう。谷本委員、どうでしょうか。

(谷本委員)

私も資料を見て、本当に町全体の児童生徒数の減少に伴って、保護者の負担もPTA活動に関して増えてきています。子どもが減少して、子どもたちが学習やスポーツで十分に取り

組む機会が減ることは、すごく残念で考えていけないなと思っています。でも、スクールバスを使って合同練習ができるようにしていただいたりしていますが、地域全体で見たら高齢化社会で、やっぱり町全体に活気があるのが一番いいと思います。高齢者の方が、子どもの声がするので見に来てみたという海部小学校に来てくれたり、1人だけが通る通学路をいつも立哨してくれたりしています。そういうことも考えていけないので、皆津先生と同じく、地域の意見も大事にしていきたいと思っています。海部小学校はICTを使った遠隔授業などで、田舎では体験できないような活動や交流ができていいなと思いますし、栄喰小学校のデュアルスクールもこれからどんどん増やしていかないといけないなと感じます。

(登井委員長)

地域の方々のご意見も聞いてみたいと思います。福井委員、いつも学校を見ていただいています。どうでしょうか。

(福井委員)

海南小学校は、校外学習で地域によく出向いてくれています。それで、地域のみならず子どもたちを守ろうという気持ちがだんだんと増えてきているような感じがします。そのような機会をたくさん与えていただいて、町の人はどちらかというと、子どもたちの姿を見たい、子どもたちの声が聞きたいと思っています。それが、外に出てきてくれないと、学校へ行く機会もないので、学校の方から地域へ出てきてくれて、そこで交流して、いろいろな意見の出しあいができるのではないかと考えています。婦人会も、保育所や小学校、中学校に花を届けて、水やりをしてくださいねという活動を1年に1回しています。そのようなちょっとしたことでも、小学校の先生は「婦人会のみんなが子どもたちを守ってくれているんだよ。一緒に花を育てようね。」と子どもたちに伝えてくれています。「ただ水やりをするだけでなく、婦人会の想いと子どもたちの心を1つにして、1つの花を育てる。」そのように考えていただけたらと思います。

(登井委員長)

辻委員、どうでしょうか。

(辻委員)

やっぱり地域の人のアンケートをとって、そのアンケートの結果で、多い少ないは別にしておいて、合併問題や財政問題も考えないといけません。地域の人を先に聞いて、それからここで検討していけたらと思います。牟岐町の方では小・中一貫をしていますが、栄喰でも小・中のチェーンスクールをしていますので、こういうこともどんどん進めて、小・中の交流も進めて、これからの海陽町の未来を背負う子どもたちになってもらいたいなと思っています。

います。海部も中学校がなくなって、活気も少し少なくなってきていますが、それはそれで、お年寄りとか地域の方が頑張って、小学校を盛り上げていければと思います。合併やいろいろなことを考えたら、地域性や距離的なこともあります。海南と穴喰では距離がすごく遠いので、なかなか難しいかなと思います。アンケートをとって、みんなで話し合いをして、検討していけたらと思います。

(登井委員長)

実際に、子どもたちを指導している委員からも意見をいただきたいと思います。福田委員、どうでしょうか。地域の方々のご意見ですとか、地域へ出て行った時の様子とか、いかがですか。

(福田委員)

中学校は総合学習という形で地域に出たり、地域から先生を呼んだりしています。特に、まちづくり関係のところで、小学校と中学校が連携して、将来性を見越した話をしています。小学校の児童は、いろいろな夢を抱いています。それが、中学の3年間でどのように膨らんでいくかということで進めています。今回は、2月1日に総合学習の発表会をしました。こういうことを、これからも進めていきたいなと毎年考えています。話が少し変わりますが、今ちょっと問題になっていることがあります。それが、部活動のあり方です。中学校では、楽しい学校生活を子どもたちに送ってもらうために、部活動が大切なことになってきます。子どもたちも、身体を動かすことで楽しさを感じます。だいたい合同チームで活動して、町が用意していただいたバスで移動しながら、穴喰中で活動したり、海陽中で活動したりというのが毎日繰り返されています。そこでは、職員が必ずついていきます。ですので、部活動がある週3回、職員は放課後16時がきたら居なくなるという状況が穴喰中学校では発生します。居ないということは、場合によっては、研修会をしようとか職員で何かしようという時に、急にはできません。今までの穴喰中は、臨機応変にいろいろなことをしていましたが、それが少し難しくなっているなと感じます。職員会もなかなか持ちにくく、時間的なこともじっくりできない状況です。コンパクトにして、ある程度の時間で話を終結させていかないといけないということで、研修にしても職員会にしても工夫がいる状況です。もう少しスムーズに部活動運営ができて解消できれば、もう少し楽しい学校生活を子どもたちに送ってもらうことができるのかなと感じています。今後、海陽中と穴喰中が1つになるというのは、時間的にもラグが発生して難しいですが、そのような点を上手にできると、子どもたちにとってすごくプラスになるのかなと思います。

(登井委員長)

村田委員、子どもたちが校外学習で外へ出て行って、地域の方に声をかけていただいたり、そういうところを実際に見られていかがでしょうか。

(村田委員)

地域に出向いて地域のことを学習したり、地域の方が学校に来ていただいているいろいろなことを教えていただくということは、学校にとっても非常になくしてはならない視点です。どの学校もそうかもしれませんが、海南小学校でも重点目標の1つにしています。今後どうなるかわかりませんが、合併すると校区がとても広くなります。海南小学校も、浅川地区、川上地区など広がっていますが、浅川地区の地域学習とか、川上地区の地域学習とかを計画的に入れていくことで、子どもたちの地域に対する思いや海陽町に生まれた良さなどを育むことができると思います。私たちもそれを意識して取り組んでいますが、地域学習は今後もなくしてはならない視点だと思っていますし、今回の学校のあり方委員会には地域の視点というのは当然入れないといけない部分だと思っています。私は町外の者ですが、海陽町の人間の良さをすごく感じています。海陽町の子どもたちには、改めて、勉強を通して考えたり感じたりして欲しいと思っています。あと、少し話がそれますが、今回の委員の中にPTA代表として小学校・中学校の代表の方には来ていただいているのですが、例えば、幼稚園や保育所のPTAの代表の方は入っていないのでしょうか。

(登井委員長)

事務局どうですか。

(事務局・森崎教育次長)

小学校・中学校にあがる前段として、幼稚園・保育所のPTAも含めてはというお話もありましたが、それぞれ代表になれる先生方に委員に入っていただくことでということで、とりまとめたところです。

(村田委員)

もっと若い世代の方も、この委員の中に入れてもいいのかなと思います。5年後、10年後の学校のあり方を検討しているので、いま赤ちゃんくらいのお子さんを持つ方とか、最近結婚したような方などの視点や意見などもあった方が、我々50代のような者が気づかない新しいこともあるのかなと思っています。委員の中に若い世代の方を入れるのもいいのかなと思いました。

(登井委員長)

若い人の意見を入れていくのも大事かと思います。保育所の先生も来てくださっています。地域の方々との交流だとか、元木委員、どうでしょうか。

(元木委員)

海陽幼稚園でも4歳児さん、5歳児さんと生活をしている中で、年間を通して、園外に出かける機会を何回も持たせてもらっています。また、浅川地区や川上地区、海部地区など、さまざまな地域から通ってきてくださっています。最近ではコロナの影響で、なかなか園内に地域の人に来てもらう機会が減っていますが、それでも子どもたちのことを考えて、声をかけてくださる地域の方もたくさんいます。さきほど福井委員もおっしゃったように、婦人会からもお花をいただくという機会があって、「これはみんなのことを思って届けてくれているんだよ。」と伝えています。自分たちの周りにはいるのはお家の人とか、おじいちゃん・おばあちゃんだけではなくて、自分たちが海陽町の中にちゃんとして、その中にはこういう人たちも過ごしているということを生活の中でできるだけ感じるような保育をしていきたいなど常々思っています。やっぱり自分たちの記憶を辿っても、幼稚園や小学校の時の楽しい記憶というのが結構残っています。小さい時に面白かったことというのが、大人になっても自分たちの子どもや知っている子たちに教えたいなという気持ちがきっと皆さんにもあると思います。私はできるだけ幼稚園の時に、この海陽町にこんな素敵なことがあって、こんな素敵な場所があって、こんな素敵な人たちに自分たちは支えられて生きているということを感じてほしいですし、それをもって大人になって、是非海陽町に帰っていただきたいなと思っています。海陽町で自分もこのような子育てをしたいな、こういうところで仕事してみたいなという子どもになってもらいたいなと思って、みんなで保育をしています。小学校や中学校にあがっていった子どもたちを見ると、本当にみんな素直で頑張っているなど感じます。その姿を幼稚園の子どもと見て、みんなもあのような素敵なお兄さんやお姉さんになれたらいいねとか、こんなに一生懸命お仕事をできる人になれたらいいねとか常々話をしながら保育をしています。コロナが落ち着いたら、またどんどん地域との交流も増やしていきたいなと思っています。

(登井委員長)

最後に、岸委員、お願いします。

(岸委員)

最後に混ぜるようなことを言いますが、地域のつながりなども大事だと思いますが、私は私立の保育園を運営していて、ある程度の規模というものがなければやっていけません。うちは50人定員でやっていますが、45人くらいになれば職員1人に辞めてもらわないといけません。42人になったらもう1人、40人になったらもう1人辞めてもらわないと、というような運営をしないと、つぶれてしまいます。子どもたちの数を確保して運営していくしかありません。保育園というのは、保護者の支援と子どもたちの育ちというのが両方の輪っかになっていて、子どもたちを笑顔で育むということと、お父さん・お母さんたちが安心して仕事ができるというのがタイヤになります。そのお父さん・お母さんが望むような一

時預かり保育ですとか、子育て支援、町外児保育、延長保育というのは、保育園では全部人件費に紐がっているのです、保育所が雇わなければいけないお金なんです。ですので、保護者の皆さんに安全に安心して働いてもらおうとすると、ある程度の規模が必要になります。行事を運営するのも、子どもたちに笑顔になってもらいたいというのも、ある程度保育士さんがいなければ回っていきません。保育士の就労や子どもたちの笑顔、保護者が安心する環境を全部守っていくためには、規模というものが非常に必要になります。やはり私は、地域とのつながりも大切ですが、小学生・中学生の笑顔を守っていくために、そこで働いている先生方が大変な思いをしながら子どもたちの笑顔を守っていくということがないようにしてほしいですし、ひきこもりや不登校の子もいますが、ケアワーカーや相談できる先生方をきちんと配置していただきたいと思います。今そこにいる子どもと子どもを預けている保護者、PTAが安心したり笑顔になれる環境をどうやってつくっていくかということが一番を考えていけたらと私は思います。

(登井委員長)

みなさんの意見を聞かせていただいて、地域の視点もいるでしょうし、いま岸委員からもあったように規模も大事な視点であるということが認識できたのではないかと思います。時間が少し経ってきましたので、次の議題に入って、最後にまた意見がありましたら出していただくということで構いませんか。それでは、次の議題について事務局からお願いします。

## ■議事 2 学校の適正配置についての考え方

事務局・森崎教育次長から説明

(登井委員長)

ただ今の事務局の説明につきまして、何かご意見やご質問はございませんか。スクールバスも結構古いものがありますが、まだまだ使っていくという考えでしょうか。

(事務局・森崎教育次長)

バスの運行につきましては、町全体の公用車の適正も含めまして、故障や事故による破損などを除いて、一般的に走行距離なども考慮して管財課と協議をしながら購入していきたいと考えています。当然、新しい路線ができたとかという場合は別として、その時は新しい車両を予算計上して購入していきます。

(登井委員長)

今のバスの定員はどのくらいですか。



(事務局・森崎教育次長)

乗車定員は、資料の16ページに記載があります。海南小学校の川上地区を走っているバスだけが、一般的なバスより小さい小回りの利くタイプになります。

(登井委員長)

かなり距離を走らないといけないんですね。

(事務局・森崎教育次長)

1日の延べ運行距離をみると120kmというところもあり、すごい距離です。

(登井委員長)

海南小で一番遠いところから来ている子どもさんは、かなり時間をかけて通学しているんですね。

(事務局・森崎教育次長)

川上の平井地区から来ているお子さんにつきましては、片道が43分です。小学校に8時に着くには、7時17分出発となります。下校は16時10分出発となっていますので、家に着くのは17時前となります。

(登井委員長)

穴喰の一番奥の方はどのくらいで行けるのですか。

(事務局・森崎教育次長)

7時40分に出て、穴喰小に8時に着きます。ちなみに、海部小は櫛川を7時44分に出て8時に着きます。

(登井委員長)

仮定ですが、学校を1つにするとか考える場合には、バスを運行して広範囲のところから子どもたちを乗せてこないといけないということで、そういうことも考え合わせながら話を進めていけたらなと思います。他に何かございませんか。

(皆津委員)

学校存続はなかなか無理があるけれど、これからのキーワードは交流だと思います。学校間の交流が大事になってきます。そのために、今のままだを希望していますが、学校は町の中にもあり、田舎にもあり、その中で交流することで、自他の良さや現状を知って考えていくことができると思います。

(登井委員長)

昔はICTもありませんでしたが、今は機器も発達して、いろいろな授業を交換し合うこともしています。こういうことは、これからも進めていけないのではないかと思います。事務局いかがですか。海部小のみができる状況なのでしょうか。

(事務局・森崎教育次長)

文科省がコロナ禍の状況も含めて、3年度ですべての小・中学校に1人1台のタブレット端末を整備するということになりましたが、海陽町はいち早く、令和2年5月に補正予算化してiPadを導入しています。1台につき4万5千円の補助しかありませんが、1台につきおよそ10万円弱の高性能の機器を入れてあります。これを県下で一番最初に、11月にすべて配備をして、そこから各小・中学校にいらっしゃる視聴覚の先生などを中心としたICT推進の学校教育部会を設立しているところです。いわゆるiPadは入れたけれど、中身がなければまったく無用のものになりますので、個別最適化のソフトであるQubena(キュービナ)をおよそ2年から3年の試用の状況を見て、他のアプリと付き比べて、どれがいいかを選定したうえで、令和3年4月から5教科で導入しています。若干、小・中学校での学校規模や進め方については差があります。海部小学校が進んでいるのは、ICT推進員ということで、町の方で専門の先生を配置しているという状況を含めまして、そこから各小・中学校の方へその状況を伝達していくというやり方で進めているところです。直近の学校休校という場合にも、子どもに持ち帰り等を行いまして、遠隔授業やプリントをiPadで送信してそれを添削することで対応しています。すべての小・中学校で差はありますが、町長は「周りを待たなくてもいいから、どんどん先駆的に進めてください。」ということを議会でも答弁されています。それをもって、他の学校も刺激を受けて、それに追いつけ追い越せて進めてもらえればと思っています。最近では、ALTが放課後に直接小学生に話しかける「オンラインホームワーク」をはじめました。これは、公にははじめてですが、子どもさんに簡単な英会話で直接話しかけるというものです。学校では、外国の方に話しかけられると恥ずかしい子もいますが、1対1になったら結構みんな話ができます。このように、ICTは、どんどんできるところから進めていっているという状況です。

(登井委員長)

戒田委員、子どもさんは学校でICTの授業を受けたことをお家で話をしたりしているのを聞いたことはありますか。

(戒田委員)

iPadを持ち帰ってくることはあります。非常に慣れています。たぶん大人より使えるのかなと思います。子どもは本当に順応が早いので、どんどん吸収していくと思います。これから間違いなく技術が進むので、またどんどん新しいもの変わっていくと思います。町が

新しいものを導入してくれる分だけ吸収して、都会の子どもに負けない、田舎に残っても仕事ができるような子どもに育つのではないかなと思います。

(登井委員長)

谷本委員、どうでしょうか。子どもさんも実際使われていると思いますが。

(谷本委員)

海部小学校も、タブレットの授業はとても進んでいます。私よりも使いこなしています。学校から帰ってきて、嬉しそうに遠隔授業で東京の子どもさんと交流したと話をしてくれたりします。

(登井委員長)

iPad にした理由は、やっぱりセキュリティがしっかりしているのですか。それとも、使いやすいですか。

(事務局・森崎教育次長)

iPad を選定した理由は、委員長がおっしゃったようにセキュリティの部分大きいということもありますし、Qubena (キュービナ) などのアプリを動かすには最適な環境だったということです。かなり解像度が高いとか、応用がききやすいというのも理由です。

(登井委員長)

子どもたちはどんどん使っていくって素晴らしい力をつけていくと思いますが、私が心配するのは、1つはリテラシーの問題です。学校や家庭でも教えていけないのかなと思っています。町の方に心配するのは、機器などがグレードアップしていくと、それなりの予算がかかります。そのあたりがどうなのかなと思いつつ、話を聞いていました。

(事務局・三浦教育長)

海部小に遠隔システムがありますが、いまはすべての子どもたちにタブレットが配布され、それぞれの学校間や小学校と中学校でもつないでやっています。これからの町のICTの推進の中では、高校と中学校をつないで高校の先生に授業をしてもらったり、中学校の先生が小学校の授業をして専門性を高めるなどという発想をもって取り組んでいます。海部に素晴らしい機器がありますが、それがなくても十分対応ができているという状況です。また、国がデジタル教科書を進めていて、今もいくつかの学校で試験的に導入しています。最終的には、すべての教科書がデジタルに置き換わるのではないかなと思います。

(谷本委員)

海部小学校もタブレットを使いこなせる子と苦手な子がいたり、先生もオンラインの授業と普通の授業の両方をしないといけないということで、現場はもっと大変だという声も聞こえてきます。やっぱり現場の負担というのも大きくなってきているのかなというのは感じます。

(登井委員長)

村田委員、このあたり先生方から何か意見は出ていませんか。

(村田委員)

さきほどもお話があったように、ハイブリッド型で、家に居る子どもと目の前の子どもと一緒にするのはとても大変という話はよく聞きます。海南小学校の場合は、在宅（オンライン）の授業というところまでは、まだできていません。タブレットを持ち帰ってプリント学習をしたり、家で写真を撮ってきて学校でみんなと共有して話し合いの材料にするなど、できるようなことから少しずつやっているという状況です。家にWi-Fi環境が整備されているところとされていないところもあります。町の方で随分整備してくれていますが、やっぱり私たちは昔の考えで平等性を重視してしまって、通常の時ならあえてタブレットを持って帰らなくてもプリント学習で済まそうという意識は少しあります。ただ、授業の中ではかなり積極的に活用しています。持ち帰りには若干抵抗感があるように思います。

(登井委員長)

たくさんの意見をいただきました。一向にまとまりませんが、予定の時間がきています。2つの議題の話をしたわけですが、最後にその他に移ってもよろしいでしょうか。

## ■その他

(登井委員長)

前に戻ってもいいですし、今日はこれだけ言っておこうなど、何でも言っていただけるとありがたいなと思います。

(辻委員)

突飛な話ですが、さきほどスクールバスの話が出ましたが、子どもたちは一番遠いところで40分から50分通学にかかるということで、子どもたちの負担をなくしてあげたいという考えもあります。家の事情やいろいろなことがあって、そこに住まないといけないということもあろうかと思いますが、学校の近くに町営住宅があったら優先的に入ることのできるような方法がないかなと思います。遠いところからスクールバスで来る子にとっては、

いろいろな負担が少なくなるのかなと思います。

(事務局・三浦教育長)

以前、教育振興計画を策定した際に、住民や保護者にアンケートを実施しています。統合についての設問も入れまして、絶対統合して欲しくないという大きな理由は2つあって、さきほどあった地域の活性化、それと通学距離が長くなるというのが同じ数くらいありました。ですので、通学距離は大きな問題だと思います。例えば、穴喰小が海南小と一緒になったら、沿岸の道をずっとスクールバスで通うのは地震や津波がきた時に怖いといったご意見を具体的に書かれた方もいます。

(登井委員長)

たくさんの意見をいただきましたが、まとめることが十分できません。

(事務局・安孫子)

この学校のあり方検討委員会は、おおむね10年先を目途に、学校のあり方を方向づけていくという性質をもっています。この令和13年度以降、人口が半分以下になる時に、現在小規模校というものが過小規模の学校になっていくことも考えられます。過小規模になってしまうと、現在の国の複数学級のあり方とか云々がもういえない環境になりますので、そこも踏まえて地域と学校のあり方という意見も大切に、検討を重ねていくことが必要ではないかと思っています。片や、町行政の運営上はどうしても財政面の判断というものが出てきますので、理想的な教育のあり方だけがいろいろな議論の中にあるとは限らないという状況がうまれてきます。そういった点も踏まえて、次回も議論を重ねていただければと思います。

(登井委員長)

他に何もなければ、事務局にお返ししたいと思います。

(事務局・森崎教育次長)

今回の開催ですが、現在5月を予定しています。案内通知につきましては、今回と同じく送付させていただいて、資料も事前にお送り、またはお持ちしてお渡ししたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

(登井委員長)

たくさんの意見をいただきまして、ありがとうございました。資料をお持ち帰りいただいて、読み込んでいただいて、次回もいろいろな意見をいただけるとありがたいなと思います。来年度は、さきほど話があったように、そろそろどういう方向に話を向けていったらいいの

か、今日話し合われました地域の視点や規模のことも含めながら、話しを少しずつでもいいから進めていきたいと考えていますので、ご協力をよろしくお願いします。それでは終わりたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

閉会